

☎テレホン法話(0577)34

2313

○3月21日〜31日:森里氏「教賢寺」

○4月1日〜10日:前田雅敏氏「長林寺」

○4月11日〜20日:辻森直邦書記「教務所」

◆宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

岸和田で盗賊に殺され
そうになるなど道中難儀
しながら驚の森に着く

一五八〇(天正八)年夏、
石山合戦のすえ大坂を退
居した顕如上人は紀州鷺
の森に移られました。そ
のころ白川中野にあった照
蓮寺にもその報せが届く
と、住職の善了はいてもた
うてもいられず、御見舞に
はせ参じよう旅の支度
をいそぎました。その時
新発意(若様)の亀寿丸
十六歳が、その役目をど
うしても自分が果たした
いって聞きません。戦
乱の中で照蓮寺と門徒を
守るためには自分より父
上がここにいたべきだ
というのです。それも道理
だと感じた善了は信賴す
る大進(真蓮寺の先祖)
をつけて紀州へ送り出
しました。

と、顕如上人は「遙々の
所をよく参つた」と亀寿
丸をねぎらい、御剃刀を
して明了と法名を下さ
しました。明了と大進はそ
こを辞したあと、こんど
は教如上人に面会しまし
た。上人は大坂に籠城を
続けようとして顕如上人
から勸告を言われたとい
いました。教如上人は二人
が飛騨からきてくれたこ
とに感激し、「これへ、こ
れ」とさし招き「うれし
い」を連発しました。この
飾り気のない人柄に強い印
象をうけて二人は帰国しま
した。まもなく教如上人
は織田信長の探索をのが
れて美濃・飛騨・越前大
野郡などに潜伏されるの
ですが、白川照蓮寺をも
頼られ、明了を指導され
たことと思います。

本龍寺の変を経て太閤
秀吉が天下人になるう
としていた一五八四(天正
十二)年、善了が四十五
歳で亡くなり明了が住職
となりました。翌年「五
郎八」の名で親しまれる
金森入道長近が秀吉に飛
騨占領を命じられて攻め
入り、鍋山の古城から統
治しようとしたが、
民衆がゲリラとなって抵
抗するのうまうまいきま
せん。その時一人の人物
が「白川照蓮寺の明了と
いう住職は、若くして人
なみ優れた信心の人と聞
いております。お殿さま
の武徳と明了さまの法力
が合体すれば、飛騨は自
然に安穩の国土となりま
しょう」と献策しました。

「それだ」と合点し
た長近は、早速明了を呼
び寄せ、次のような問答
を展開しました。

「仏法と世法は車の両輪
のごときものだから、貴
坊はこの国の法將となられ
よ。さすればわしはこの国
の大将をつとめよう」

「それはわが宗門の掟で
あり、愚僧はいささかも
背くことはいけません」

「わしのいうことが宗門
の掟と同じとはどういう
ことか？」

「諸宗門は妻子を捨て、
家を離れて精進しなければ
なりませんが、教え
を守ろうとすれば世法が
成り立ちません。わが宗
門は教えを守る人が増え
るほど世の中が穏やかに
なります」

「もつともだ、ことわり
だ。これからはお互い腹を
割って話し合おう。それ
について頑みがある。白川
の寺をこの城下に移しては
もらえないだろうか」

「白川はことごとく門徒
の中ですが、この辺は門徒
が多くないのが難点です」

「それは簡単だ。領主の
わしが力いっぱい門徒を
集めるので、一日もはや
く寺を移してくれ」

ざっと、こんな調子で
高山の町が生れたと「眼
江記」という書物に記し
てあります。

しかしこの問答は高山
を生んだだけでなく、真
宗大谷派という宗門を樹
立するきっかけともなっ
たのです。金森長近は茶
湯でも千利休・古田織部
などと親しんだ数寄者で、

京都伏見に書院と茶亭を
造って、秀吉や家康など
をもてなしました。この「伏
見サロン」にしようちゅう
出かけていたのが、同じく
利休の高弟だった教如上
人でした。秀吉に引退を
命ぜられた上人にちて茶
の湯は心を和ませる大切
な機会でした。

照蓮寺を通して真宗に
関心をよせていた長近が
同じ趣味をもつ教如上人
に親近感を覚えないはず
がありません。利休の教
えのもと秀吉の朝鮮出兵
に反対するなどして意気
投合していた長近は、上
人の将来を思つて家康
に引き合わせます。こう
して東本願寺成立の機運
が茶室の中で醸成されて
いったのです。

東本願寺創立の上人
本山 教如上人四百回忌法要のご案内

【期間】2013年4月2日(火)〜4日(木)

2日(火) 14:30 初逮夜(音楽法要)
3日(水) 7:00 晨朝
10:00 日中
14:00 逮夜
4日(木) 6:30 晨朝
9:00 参堂列(縁儀)
10:30 結願日中

「教如上人展」
期間 2013年4月1日(月)〜7日(日)
時間 9:00〜17:00(入場は16:45まで)
会場 阿弥陀堂 特設会場

展示テーマ(予定)
① 教如上人と
本願寺
② 教如上人とその家族
③ 石山合戦
④ 本願寺退去・継職・
退隠
⑤ 宗主活動の継続と
関ヶ原の戦い
⑥ 東本願寺創立

観覧無料

「教如上人消息」石山合戦が和議となった天正8(1580)年8月に記さ
れたもので、大坂退去を無念と述べている。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

「ひだご坊」は毎月20日に発行されます。

定例法座・法話(午後1時から) ○3月27日(水)・大町慶華輪番

○3月28日(木)・畑元氏「願徳寺」

○3月28日(木)・畑元氏「願徳寺」

○4月11日(木)・大町慶華輪番

○4月11日(木)・大町慶華輪番

○4月13日(土)・前田雅教氏「長林寺」

○4月13日(土)・前田雅教氏「長林寺」

恵信尼は、第三通に親鸞の往生を証する記事を二つしたためて、疑いを押さなければならないことを覚悟に論じて、一旦手紙を閉じている。しかしそれだけでは意味が正しく伝わりませんと考え直して、第五通を書き起し、更に第四通と第六通を添えて、同じ日付で返信している。また第五通は、他の消息の紙より一回り大きな紙を用い、縦紙を横長に折って(折紙)、折り目を下にして書き、更に裏にも書かれており、現在折り目を開いて表見してあるが、この消息だけ上下二段逆さまになった形になっている。多くの文字を一枚の紙に書くために特別に取った形式と考えられる。

最初の行に、少し大きな字で「せんしんの御坊(善信の御坊)」と記して、次の行からその記事が書き出されている。これは表題と呼ぶべきもので、主語のように扱うと間違ってしまう。この第五通が、「善信の御坊」を主題とすることを表している。恵信尼は娘の覚悟に、父親である親鸞のことを「殿」と表記しているのは違っており、特別な尊称の言葉で親鸞を示そうとしている。それは第三通の下妻の夢で、もう一体は親音で、あれこそ「善信の御坊」であると告げられた言葉を承けて、ではその親音菩薩である「善信の御坊」とは、具体的にどこで恵信尼が実感したのかということを中心的に書き出そうとしているのである。従来この形式というものが充



分理解されなかったために、「善信の御坊」は恵信尼が普段から呼称した呼び方に過ぎないとか、第五通の記事も、親鸞の迷いであるとかと、否定的にしか領解されていなかった。親鸞の往生の間違いのないことを示そうとする一連の消息に、単なるマイナス面を付け加えていると理解してはいけな

すか」と尋ねると、「うわごとではない。伏して二日目から『大経(仏説無量寿経)』を休みなく読んでいた。目をふさいでみても、『大経』の文字がきららかに見えてしまう。どうしたことであろう、念仏の信心の他に何かに掛かるものがあるのだろうかと思案してみた。そうすると、十七年ほど前に、ことさらに三部経を千部説誦して、衆生利益しようと思いつたことがあった。しかし、善導の『自信教人信、雖中転更難』の言葉を思い出して、自ら信じ、人にも教えて信じさせることが、真に仏恩を報じたてまつるものである。なのに名号の他に何の不足に思いつて、経を読もうとすることかと思いついて、読むことを止めたが、なおまだ読もうとする心が残っていたのか。人の執心、自力の心というものは、よくよく思慮しなければならぬものであったかと決心して、ようやく経を読むことが止まった。」と話してくれました。八日目の明け方(四月十一日)に「まはさてあらん」と言われてから、やがて汗が出つくして、よくなられました。

聖人は、熱でうなされる中、『大経』の文字がきらきらと見えるという体験をして、それが何故おこるのかを思案し、十七年前の「三部経千部説誦」しようとした心がまだ残っていたことに気づく。そして、衆生利益は「自信教人信」こそが本来の姿であると語るのである。

「蓮如忌法要」は高山別院で、3月25日(月)午後1時から、お勤め法話、朝倉順章氏(福井教区看景寺)講師「蓮如さんの道」

情報求めています！

50年前に高山別院で勤められた親鸞聖人700回御遠忌法要を振り返るために当時の写真や資料、エピソードなど求めています。ご協力お願いします。

700回御遠忌
1967(昭和42)年5月1日～5日
【問い合わせ先：高山教務所 0577-32-0776】



春の彼岸会・永代経法要

亡き方をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

3月17日(日)～23日(土)
午後1時から勤行・法話

- | | | | |
|--------|-------|------|---------------|
| 20日(水) | たけだ | まさふみ | 雅文氏(東等寺住職) |
| 21日(木) | みつもと | まさゆき | 三本昌之氏(蓮徳寺住職) |
| 22日(金) | え | まさひと | 江馬雅人氏(賢誓寺住職) |
| 23日(土) | なかいいだ | まさお | 中飯田正夫氏(寶蓮寺住職) |

高山別院
蓮如忌法要
日時 3月25日(月)
午後1時から
内容 お勤め法話
講師 朝倉順章氏
(福井教区看景寺)
議題 「蓮如さんの道」
大谷婦人会
追申会・総会
日時 4月11日(木)
午後1時から
会場 高山別院本堂
法話 大町慶華輪番
たくさんの方の皆様の参りをお待ちしております。

公開講座 現代と真宗

母親が語る 原発問題

— 原発労働者の死 —

しまはし みちこ
講師 嶋橋 美智子氏



1937年、神奈川県生まれ。1991年に中部電力浜岡原子力発電所で8年間放射線被曝労働に従事した息子・伸之さん(当時29歳)を白血病で亡くす。1993年に労災申請し、翌1994年に認定される。その後、精力的に各地で講演をし、原発問題に対し問題提起し続けている。著書は「息子はなぜ白血病で死んだのか(技術と人間)、その再版「息子は死んだ・嶋橋原発被曝労災認定までの記録」(新読書社)、「いのちを奪う原発」(インタビュー記事掲載/東本願寺出版部)

日時 2013年4月12日(金)
午後7時～9時30分

会場 高山別院御坊会館

入場
無料